

「会員短信 17」

「ご縁の不思議を大切に」 田中晴美

私が俳句を始めたきっかけは、小、中、高校と、八木健会長（普段は「タケシ君」と呼びます）と同級生だったというご縁です。

実は、会員の横山洋子さんも同じ高校の同級生ですが、洋子さんと私は大親友なのです。高校卒業後、洋子さんは静岡大学へ、私は書道の勉強がしたくて國學院大學に進んだ為、大学は別々でした。ところが、洋子さんとは大学卒業後、なんと同じ小学校に赴任して同じ下宿に暮らした間柄なのです。

たまたま数年前に、同級生三人で再会し、俳句を始めるようになりました。最近は、八木さんが静岡に帰って来た時に、洋子さんと三人で句会をするのが楽しみです。本当にありがたく、不思議なご縁を感じます。

俳句の滑稽は難しいのですが、私の句を見て知人が「オモシロイ」と言ってくれるのが励みです。八十路ともなると俳句という楽しみがあるのはありがたいと思っています。

私は滑稽句をつくるために、以下のことを心がけています。①身の周りの可笑しいことを見つける。②何かを感じた時にそれが俳句のもとになるのでそれを大切に忘れないようにする。③滑稽俳句協会報を俳句の教科書として繰り返し読む。

ホームラン酷暑の空に突き刺さる  
県道に全身打撲の夏みかん  
恵方巻方向の逸れ福は来ず  
ひいらぎを挿すや自分に喝入れて